

平成27年 2月 2日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 和歌山県立田辺高等学校 土永知子
2. 講師氏名: Dr. Scott V. C. GROOM
3. 同行者氏名: 川北 篤 先生
4. 実施日時: 平成27年 1月 28 日 (水) 13 : 25 ~ 14 :15
5. 参加生徒: 1 年生 81 人、 2 年生 1 人、 3 年生 1 人 (合計 83 人)
備考: 理系の希望者(普通科と自然科学科混在)
6. 講演題目: (英文) How species become social in Bees.
(和文) ハナバチ類における社会性の起源
7. 講演概要:
 - オーストラリアの紹介
 - 自己紹介(どうして科学者になろうと思ったか、科学者になるためにはどのような心構えがよいか)
 - ご自身の研究の紹介
 - 動物が社会生活を送るのと、単独生活を送るのはなぜか。
 - どのようにして社会性を身につけるようになるのか。
 - ハチの分類、社会性をもつハチとそうではない場合の違い。
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1) 講演時間 50 分
質疑応答時間 1 分(時間がとれなかったため、休憩時間中に生徒が来ました)
 - (2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)
プロジェクター使用による講演
 - (3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)
同行者によるサポート
 - (4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)
英文講演要旨を翻訳することを宿題とした。日本語の資料をつけた(ウィキペディアより)
10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金
申し訳なかったのですが、支払えませんでした。
11. その他特筆すべき事項: ハチの研究をされているので、学校の近所で梅畑のハチの巣を見ていただきました。